



# 構成の復元を使用した手動アップグレード

- [概要](#) (1 ページ)
- [前提条件とガイドライン](#) (3 ページ)
- [Nexus Dashboard の展開と Nexus Dashboard Orchestrator のインストール](#) (5 ページ)
- [構成の復元](#) (8 ページ)
- [設定のばらつきの解決](#) (12 ページ)

## 概要

Nexus Dashboard Orchestrator のアップグレードに関しては、2つのアプローチがあります。

- 各コンポーネント (Nexus Dashboard プラットフォームや Orchestrator サービスなど) を順番にアップグレードすることによるインプレースアップグレード。

このアプローチは、[サービス カタログを介した自動アップグレード](#) で説明されており、次の場合に推奨されます。

- 物理的な Nexus Dashboard クラスタを使用している場合。
- Nexus Dashboard (2.2.2 以降) および Nexus Dashboard Orchestrator (3.7.1 以降) の最近のリリースを実行している場合。

このアプローチを使用して Orchestrator リリース 3.3(1) 以降をアップグレードできませんが、Orchestrator サービスをアップグレードする前に、基礎となる Nexus Dashboard プラットフォームをアップグレードする必要がある場合があります。このような場合、以下で説明する構成の復元によるアップグレードの方が、より高速で簡単な場合があります。

- 新規インストールを展開し、バックアップ復元ワークフローを介して既存の構成を転送します。

このアプローチは、この章で説明されており、次の場合に推奨されます。

- リリース 3.3(1) より前の Nexus Dashboard Orchestrator またはマルチサイト Orchestrator のいずれかのリリースを実行している場合。

この場合、インプレースアップグレードはサポートされていないため、構成の復元を使用してアップグレードする必要があります。

- 仮想 Nexus Dashboard クラスタを使用していて、Nexus Dashboard Orchestrator の古いリリースを実行している場合。

古い Nexus Dashboard Orchestrator リリースからアップグレードするには、基盤となる Nexus Dashboard プラットフォームもアップグレードする必要があります。その場合、新しいクラスタを展開して構成を復元すると、必要なメンテナンスウィンドウが短縮される可能性があります。

これにより、以前のバージョンに戻りたい場合やアップグレードが失敗した場合に備えて、既存のクラスタを切断して、アップグレードが完了するまで既存の VM を保持することもできます。

### リリース 4.0(1) 以降における変更

リリース 4.0(1) 以降、Nexus Dashboard Orchestrator は、テンプレートの設計と展開に関して、いくつかのベスト プラクティスを検証して適用します。

- すべてのポリシー オブジェクトは、依存関係に応じた順序で**[展開 (deployed)]**する必要があります。

たとえば、ブリッジドメイン (BD) を作成するときは、それを VRF に関連付ける必要があります。この場合、BD には VRF 依存関係があるため、VRF は BD の前または一緒にファブリックに展開する必要があります。これらの2つのオブジェクトが同じテンプレートで定義されている場合、Orchestrator は展開時に VRF が最初に作成され、ブリッジドメインに関連付けられるようにします。

ただし、これら2つのオブジェクトを別々のテンプレートで定義し、最初に BD を使用してテンプレートを展開しようとする、関連付けられている VRF がまだ展開されていないため、Orchestrator は検証エラーを返します。この場合、最初に VRF テンプレートを展開してから、BD テンプレートを展開する必要があります。

- すべてのポリシー オブジェクトは、依存関係に応じた順序で**[展開解除 (undeployed)]**する必要があります。つまり、展開された順序と逆の順序で展開する必要があります。

上記の結果から、テンプレートを展開解除するときは、他のオブジェクトが依存しているオブジェクトを展開解除してはなりません。たとえば、VRF が関連付けられている BD を展開解除する前に、VRF を展開解除することはできません。

- 複数のテンプレートにまたがる循環的な依存関係は許可されません。

ブリッジドメイン (bd1) に関連付けられた VRF ( vrf1 ) の場合を考えてみます。これは、次に EPG ( epg1 ) に関連付けられます。[テンプレート 1 (template1)] に vrf1 を作成してそのテンプレートをデプロイし、次に [テンプレート 2 (template2)] に bd1 を作成してそのテンプレートをデプロイすると、オブジェクトが正しい順序でデプロイされるため、検証エラーは発生しません。ただし、その後 [テンプレート1 (template1)] に epg1 を作成しようとする、2つのテンプレート間に循環依存関係が作成されるため、Orchestrator は、EPG の [テンプレート1 (template1)] 追加を保存することを許可しません。

これらの追加のルールと要件により、以前のリリースからリリース 4.0(1)以降にアップグレードするには、既存のすべてのテンプレートを分析し、新しい要件を満たさないテンプレートを変換する必要があります。これは、次のセクションで説明するアップグレードプロセス中に自動的に実行され、既存のテンプレートを新しいベストプラクティスに準拠させるために適用する必要があります。すべての変更の詳細なレポートを受け取ります。



- (注) リリース 4.0(1)に移行する既存の構成をバックアップする前に、次の「前提事項と注意事項」セクションで説明されているすべての要件を満たしていることを確認する必要があります。そうしないと、1つ以上のテンプレートでテンプレートの変換が失敗し、手動で問題を解決するか、移行プロセスを再開する必要があります。

### アップグレードのワークフロー

次のリストに、移行プロセスの概要と実行する必要があるタスクの順序を示します。

1. アップグレードガイドラインの確認と充します。
2. 既存の Nexus Dashboard Orchestrator 構成をバックアップし、バックアップをローカルマシンにダウンロードします。
3. 既存のクラスタを切断または停止します。  
既存のクラスターが仮想の場合は、新しいクラスタを展開して構成のバックアップを復元するまで、ネットワークから切断するだけです。これにより、既存のクラスタを保持し、移行手順で問題が発生した場合に簡単にサービスを再開できます。
4. 新しい Nexus ダッシュボードクラスタ リリース 2.3(b) 以降を展開し、Nexus Dashboard Orchestrator リリース 4.1(2) 以降をインストールします。
5. バックアップ用のリモートロケーションを新しい Nexus Dashboard Orchestrator インスタンスに追加し、以前のリリースで作成したバックアップをアップロードして、新しい NDO のインストールで構成バックアップを復元します。
6. 設定のばらつきを解決します。

## 前提条件とガイドライン

Cisco Nexus Dashboard Orchestrator クラスタをアップグレードする前に、次の手順を実行します。

- このリリースからのダウングレードはサポートされていないのでご注意ください。

ダウングレードする場合は、以前のバージョンを使用して新しいクラスタを展開し、以前のリリースから構成を復元できます。新しいバージョンで作成されたバックアップを古いバージョンで復元することはできないことに注意してください。つまり、リリース 3.7(1)でのリリース 4.1(2)からのバックアップの復元はサポートされていません。

- 既存の構成をバックアップする前に、構成のばらつきがないことを確認してください。  
 既存の Nexus Dashboard Orchestrator がリリース 3.7(1) 以降の場合、[Nexus Dashboard Orchestrator 構成ガイド](#)の「構成のばらつき」セクションで説明されているばらつき調整ワークフローを使用できます。
- バックアップして、既存の Orchestrator 構成をダウンロードします。  
 構成のバックアップについては、お使いのリリースの [Nexus Dashboard Orchestrator 構成ガイド](#)の「バックアップと復元」の章で説明されています。
- バックアップして、既存のファブリックの構成をダウンロードします。  
 Nexus Dashboard Orchestrator をアップグレードした後、構成のばらつきの調整を実行することをお勧めします。これには、構成をファブリックに再展開する必要がある場合があります。そのため、Nexus Dashboard Orchestrator によって管理されるすべてのファブリックの構成バックアップを作成することをお勧めします。  
 Cisco APIC 構成バックアップの作成の詳細については、使用しているリリースの [Cisco APIC Basic Configuration Guide](#) の「Management」の章を参照してください。  
 Cisco Cloud Network Controller 構成バックアップの作成の詳細については、ご使用のリリースの [Cisco Cloud Network Controller User Guide](#) の「Configuring Cisco Cloud Network Controller Components」の章を参照してください。  
 Cisco Nexus ダッシュボードファブリックコントローラ構成バックアップの作成の詳細については、使用しているリリースの [Cisco NDFC ファブリックコントローラ構成ガイド](#)の「バックアップと復元」の章を参照してください。
- バージョン管理が有効になっている場合（リリース 3.4(1)以降サポート）、アップグレード中にテンプレートの最新バージョンのみが保持されることに注意してください。  
 [ゴールデン (Golden)] のタグが付けられた古いバージョンを含む、テンプレートの他のすべての既存バージョンは転送されません。
- 既存のクラスターの構成バックアップを作成する前に、すべてのテンプレートがサポートされている状態であることを確認します。
  - **[展開解除 (Undeployed)]** されたテンプレート、または作成後に **[未展開 (Never Deployed)]** テンプレートは、特に注意する必要はなく、アップグレード中に移行されます。
  - **[展開された (Deployed)]** ]すべてのテンプレートには、保留中の構成変更が含まれていてはなりません。  
 前回の展開以降に変更されたテンプレートが1つ以上ある場合は、テンプレートの最新バージョンを展開するか、最後に展開されたバージョンに戻して再展開することにより、展開以降のテンプレートへの変更を元に戻す必要があります。
- Orchestrator サービスをインストールするときは、次の2つの方法のいずれかで実行できます。

- Nexus Dashboard アプリストアを使用して、この場合、Cisco DC App Center は、管理ネットワークを介して直接、またはプロキシ設定を使用して Nexus Dashboard から到達可能である必要があります。Nexusダッシュボードのプロキシ設定については、『*Nexus Dashboard User Guide*』を参照してください。



(注) App Storeでは、サービスの最新バージョンにのみアップグレードできます。別のリリースにアップグレードしたい場合は、以下に説明したとおり、手動のアップグレードプロセスを使用する必要があります。

- 手動で新しいアプリ イメージをアップロードすることにより、DC App Center への接続を確立できない場合、または使用可能な最新リリースではないサービスのバージョンにアップグレードする場合に使用できます。
- SR-MPLS および SDA 統合構成は、アップグレード中に転送されません。  
展開にこれらの統合のいずれかが含まれている場合、移行には影響しませんが、通知を受け取り、アップグレードの完了後にそれらを再構成する必要があります。
- Nexus Dashboard Orchestrator をこのリリースにアップグレードした後に新しい Cloud Network Controller サイトを追加および管理する場合は、それらのサイトが Cloud Network Controller リリース 5.2(1) 以降を実行していることを確認してください。  
以前のリリースを実行しているクラウド Network Controller サイトのオンボーディングと管理はサポートされていません。
- アップグレード後に Nexus Dashboard Orchestrator に追加できるバックアップ用のリモートロケーションがあることを確認してください。  
リリース 4.1(2) 以降で設定をバックアップおよび復元するには、バックアップをリモートの場所に保存する必要があります。これは、NDO UI で設定する必要があります。バックアップとリモートロケーションの詳細については、『*Cisco Nexus Dashboard Orchestrator Configuration Guide*』の「**Operations > Backup and Restore**」の章を参照してください。  
既存のインストールですでにリモートの場所が構成されている場合、その場所は構成の復元中に保持されないことに注意してください。したがって、このリリースを展開した後、構成を復元するには、同じリモートの場所を追加する必要があります。

## Nexus Dashboard の展開と Nexus Dashboard Orchestrator のインストール

新しいクラスターをデプロイするため、手順はこのガイドの [Nexus Dashboard Orchestrator の展開](#) 章で説明されている手順と同じです。このセクションでは、手順を要約し、それぞれの特定のリンクを提供します。

## 始める前に

次の前提条件があります。

- 既存の Nexus Dashboard Orchestrator 構成をバックアップおよびダウンロードしました。

### ステップ 1 新しい Nexus Dashboard クラスタを展開します。

展開要件、利用可能なフォーム ファクタ、およびインストール手順に関する詳細情報は、『[Cisco Nexus Dashboard Deployment Guide, Release 2.3.x](#)』から入手できます。

(注) Nexus ダッシュボードリリース 2.3.2以降を導入することを推奨します。

### ステップ 2 Nexus Dashboard と Nexus Dashboard Orchestrator が正常に展開されたら、Nexus Dashboard の管理コンソールに移動します。

Nexus Dashboard にログインするには、ブラウザを開き、Nexus Dashboard クラスタのいずれかのノードの管理 IP アドレスに移動し、上部のナビゲーションバーのドロップダウンメニューから **[管理コンソール]** を選択します。

### ステップ 3 Orchestrator サービスによって管理されるファブリックを Nexus Dashboard にオンボードします。

(注) 構成の復元を続行してアップグレードプロセスを完了する前に、Nexus Dashboard Orchestrator (または Multi-Site Orchestrator) によって以前に管理されていたすべてのファブリックを Nexus Dashboard にオンボードする必要があります。

このリリースでは、ファブリックのオンボーディングは、共通の Nexus Dashboard 画面で実行されます。このプロセスについては、『[Cisco Nexus Dashboard User Guide](#)』の「[Site Management](#)」の章で詳しく説明されていますが、簡単に言えば次のとおりです。

- a) メインナビゲーションメニューから **[サイト (Sites)]** を選択します。
- b) メインペインで、**[サイトの追加 (Add Site)]** をクリックします。
- c) オンボードするサイトのタイプを選択し、コントローラの IP アドレス、ユーザー名、パスワードなどのサイトの情報を提供します。

- Cisco APICによって管理されるオンプレミスサイトの場合、**[ACI]** を選択します。
- クラウドネットワーク コントローラ (以前のクラウド APIC) により管理されるクラウドサイトの場合、**[クラウド ネットワーク コントローラ (Cloud Network Controller)]** を選択します。  
Orchestrator によって管理されていたすべての Cloud APIC サイトにこのオプションを使用します。
- NDFC (以前の DCNM) によって管理されるオンプレミス サイトの場合は、**[NDFC]** を選択します。  
Orchestrator によって管理されていたすべての DCNM サイトにこのオプションを使用します。

(注) 過去にサイトを Orchestrator にオンボードしたときと同じサイトの **名前** を使用する必要があります。別の名前でサイトを追加すると、構成の復元が失敗します。

- d) **[保存 (Save)]** をクリックして、サイトを追加します。
- e) サイトが起動し、Nexus Dashboard UI に `up` と表示されるまで待ちます。

f) Orchestrator によって以前に管理されていたすべてのサイトについて、この手順を繰り返します。

**ステップ 4** Cisco Nexus Dashboard Orchestrator サービスをインストールします。

これについては、このガイドの [Nexus Dashboard Orchestrator の展開](#) 章で詳しく説明されていますが、Orchestrator のインストールにすでに精通している場合は、次の手順でプロセスを要約します。

App Store を使用してサービスをインストールする場合:

- a) [サービス (Services)] 画面で、[App Store] タブを選択します。
- b) [Nexus ダッシュボード オーケストレータ (Nexus Dashboard Orchestrator)] タイルで、[アップグレード (Upgrade)] をクリックします。
- c) 開いた [ライセンス契約 (License Agreement)] ウィンドウで、[同意してダウンロード (Agree and Download)] をクリックします。

サービスの手動インストールする場合。

- a) DC App Center で Nexus Dashboard Orchestrator ページを参照します。  
<https://dcappcenter.cisco.com/nexus-dashboard-orchestrator.html>
- b) [バージョン (Version)] ドロップダウンから、インストールするバージョンを選択し、[ダウンロード (Download)] をクリックします。
- c) [同意してダウンロード (Agree and download)] をクリックしてライセンス契約に同意し、イメージをダウンロードします。
- d) Nexus Dashboard の左のナビゲーションメニューから [サービス (Services)] を選択します。
- e) Nexus Dashboard の [サービス (Services)] 画面で、[インストール済みのサービス (Installed Services)] タブを選択します。
- f) メインペインの右上にある [アクション (Actions)] メニューから、[アップロード (Upload)] を選択します。
- g) [サービスをアップロード (Upload Service)] ウィンドウで、イメージの場所を選択します。  
アプリケーションイメージをシステムにダウンロードした場合は、[ローカル (Local)] を選択します。  
サーバでイメージをホストしている場合は、[リモート (Remote)] を選択します。
- h) ファイルを選択します。  
前のサブステップで [ローカル (Local)] を選択した場合は、[ファイルの選択 (Select File)] をクリックし、ダウンロードしたアプリケーションイメージを選択します。  
[リモート (Remote)] を選択した場合は、イメージファイルのフル URL を指定します。たとえば、`http://<ip-address>:<port>/<full-path>/cisco-mso-<version>.nap` のようになります。
- i) [アップロード (Upload)] をクリックして、アプリケーションをクラスタに追加します。  
イメージがクラスタにアップロードされ、初期化されるまでに数分かかる場合があります。

**ステップ 5** 新しいイメージが初期化されるまで待ちます。

**ステップ 6** Nexus Dashboard Orchestrator タイルで、[有効 (Enable)] をクリックします。

すべてのアプリケーションサービスが起動し、GUI が使用可能になるまでに、数分かかる場合があります。

**ステップ1** オーケストレータサービスを起動します。

サービス タイルで **[開く (Open)]** をクリックするだけです。

シングルサインオン (SSO) 機能を使用すると、Nexus ダッシュボードで使用したものと同一クレデンシャルを使用してアプリケーションにログインできます。

---

### 次のタスク

Nexus ダッシュボードと Nexus ダッシュボード オーケストレータがインストールされ、すべてのサイトがオンボードされたら、[構成の復元 \(8 ページ\)](#) の説明に従って構成の復元に進みます。

## 構成の復元

ここでは、以前の設定を復元するために使用する、新しい Nexus ダッシュボード クラスタと NDO サービスを展開して設定する方法について説明します。

### 始める前に

次の前提条件があります。

- 既存の Nexus Dashboard Orchestrator 構成をバックアップおよびダウンロードしました。
- [Nexus Dashboard の展開と Nexus Dashboard Orchestrator のインストール \(5 ページ\)](#) の説明に従って、対象の Orchestrator リリースをインストールしました。

---

**ステップ1** 新しい Nexus ダッシュボード クラスタが稼働中であり、NDO サービスがインストールされていることを確認します。

NDO サービスは、新規インストールで、サイトまたはポリシーの設定を変更していないものであることが必要です。

**ステップ2** 新しい Nexus Dashboard Orchestrator サービスを開きます。

**ステップ3** 設定バックアップ用のリモート ロケーションを追加します。

このリリースの Nexus Dashboard Orchestrator では、クラスタのローカルディスクに保存されている設定のバックアップをサポートしていません。したがって、移行前に保存したバックアップをインポートする前に、Nexus Dashboard Orchestrator でリモートロケーションを設定し、そこに設定のバックアップをインポートする必要があります。

- a) 左側のナビゲーション ペインで、**[操作 (Operations)] > [リモート ロケーション (Remote Location)]** を選択します。
- b) メインウィンドウの右上隅で、**[リモート ロケーションの追加 (Add Remote Location)]** をクリックします。



[新規リモート ロケーションの追加 (Add New Remote Location)] 画面が表示されます。

- c) リモート ロケーションの名前と説明 (任意) を入力します。

現在、2つのプロトコルが設定バックアップのリモートエクスポートに対してサポートされています。

- SCP
- ステップ

(注) SCPはWindows以外のサーバーでのみサポートされます。リモートロケーションがWindowsサーバーの場合は、SFTPプロトコルを使用する必要があります。

- d) リモート サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。

[プロトコル (Protocol)] セクションに基づいて、指定するサーバーではSCPまたはSFTP接続を許可する必要があります。

- e) バックアップを保証するリモート サーバーのディレクトリにフルパスを指定します。

パスの先頭にはスラッシュ (/) 文字を使用し、ピリオド (.) とバックスラッシュ (\) を含むことはできません。たとえば、/backups/ndo です。

(注) ディレクトリは、リモート サーバにすでに存在しなければなりません。

- f) リモート サーバに接続するために使用するポートを指定します。

デフォルトで、ポートは 22 に設定されます。

- g) リモート サーバに接続するときを使用される認証タイプを指定します。

次の2つの認証方式のうちの1つを使用して設定できます。

- パスワード—リモートサーバにログインするために使用されるユーザ名とパスワードを指定します。
- SSH プライベート ファイル—ユーザ名とリモート サーバにログインするために使用される SSH キー/パスフレーズのペアを指定します。

- h) [保存 (Save)] を使用して、リモート サーバを追加します。

**ステップ 4** 新しい Nexus Dashboard Orchestrator クラスタにバックアップ ファイルをインポートします。

- a) 左側のナビゲーション ペインで、[操作 (Operations)] > [バックアップと復元 (Backups & Restore)] を選択します。
- b) メインペインで、[アップロード (Upload)] をクリックします。
- c) 開いた [リモートへのアップロード] ウィンドウで、[ファイルの選択] をクリックし、アップグレード前に作成した構成バックアップ ファイルを選択します。
- d) [リモート ロケーション (Remote location)] ドロップダウンメニューから、リモート ロケーションを選択します。
- e) (オプション) リモート ロケーションのパスを更新します。

リモートバックアップのロケーションを作成するときに設定したリモートサーバ上のターゲットディレクトリが、[リモートパス (Remote Path)] フィールドに表示されます。

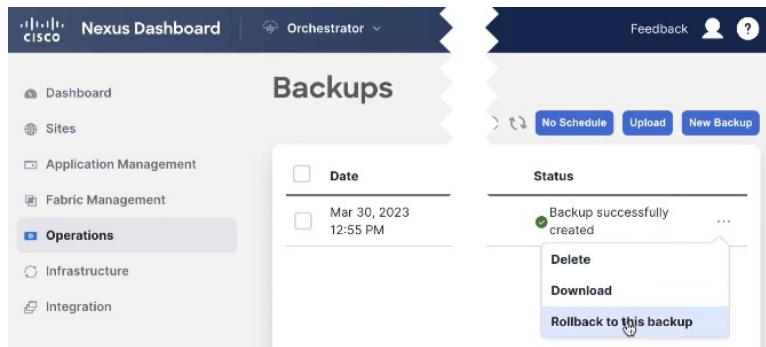
パスにはサブディレクトリを追加することができます。ただし、ディレクトリはデフォルトの設定済みパスの下にある必要があり、すでにリモートサーバで作成されている必要があります。

- f) **インポート** をクリックしてファイルをアップロードします。

バックアップのインポートは、[**バックアップ (Backups)**] ページに表示されたバックアップのリストにそれを追加します。バックアップは NDO UI に表示されますが、ファイルは、クラスタノードに直接保存されるのではなく、リモートサーバにのみ保存する点に注意してください。

## ステップ 5 設定を復元します。

- a) メイン ウィンドウで、復元するバックアップの隣のアクション (...) アイコンをクリックし、[**このバックアップにロールバック (Rollback to this backup)**] を選択します。



- b) [**このバックアップから復元 (Restore from this backup)**] ウィンドウで、警告を読み、[**復元 (Restore)**] をクリックして、選択したバックアップを復元することを確認します。

復元プロセスはバックアップをインポートし、問題がないかチェックします。完了までに数分かかる場合があります。次のステップで、最初のバックアップのインポート後、データベースをリリース 4.0(1) にアップグレードするために必要な追加の検証を求めるプロンプトが表示されます。

- c) バックアップのインポートが完了したら、レポートにエラーがリストされていないことを確認し、[**検証の復元が必要**] をクリックして続行します。

このリリース用に構成データベースを更新する前に、アップグレードプロセスでいくつかの検証が実行されます。検証は、次のステップの最終アップグレード段階で実行されるテンプレートとポリシーの変更の概要が表示され、次の内容が含まれます。

- 暗黙的なテンプレートストレッチ – 1 つ以上のオブジェクトが暗黙的にストレッチされている場合、アップグレードプロセスにより、明示的にストレッチされた新しいテンプレートが作成され、オブジェクトがそれらのテンプレートに移動されます。

たとえば、vrf1 を含み、site1 に関連付けられているテンプレート ( t1 ) と、vrf1 を参照する BD を含む ( t2 ) が 2 つのサイトがあるが、2 つのサイト ( site1 と site2 ) に関連している場合、vrf1 は 2 つのサイトの間で暗黙的に拡張されます。

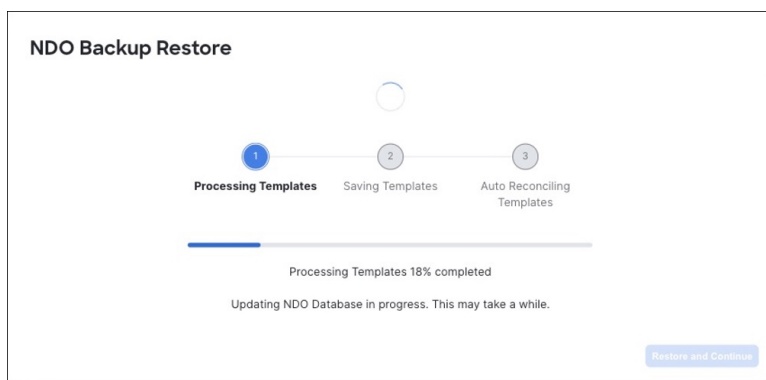
これは、リリース 4.0(1) から許可されなくなり、VRF を両方のサイトに明示的に拡張する必要があります。このような場合、アップグレード中に、VRF は、両方のサイト間で明示的に拡張される別のテンプレートに移動されるか、そのテンプレートの他のポリシーにも拡張が必要かどうかに応じて、元のテンプレートが両方のサイトに関連付けられます。

この場合に作成されるテンプレートはすべて、[テンプレート %d のアップグレード (UpgradeTemplate %)] という名前になります。%d は、新しく追加されたすべてのテンプレートが一意であることを保証するために、1 から始まる増分番号です。

- グローバル ポリシーの移行 – すべてのグローバルテナントポリシー（DHCP リレーまたはルートマップなど）およびファブリック ポリシー（QoS など）は、リリース 4.0(1) で追加された新しいテナントおよびファブリック ポリシー テンプレートに移動されます。

(注) この段階では、すべてのテナントがバックアップからインポートされ、NDO で作成されていますが、スキーマとテンプレートは次の手順で作成されます。

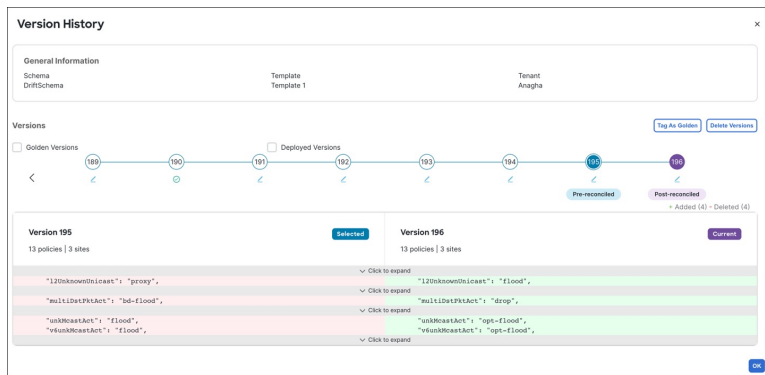
- d) [検証レポートの復元 (Restore Validation Report)] ウィンドウで、[復元して続行 (Restore and Continue)] をクリックして続行します。



これは、現在のベストプラクティスに従って、バックアップに存在するスキーマとテンプレートがインポートされ、NDO 構成データベースに再作成されるアップグレードの段階です。これらのスキーマとテンプレートは、グリーンフィールドのスキーマ/テンプレートの作成であるかのように、ローカルの NDO データベースにポストされます。次に、新しく保存されたテンプレートは、現在の展開要件とベストプラクティスに準拠する正しい順序で展開されます。このステップのテンプレート展開では、「ローカル展開」オプションを使用して展開プランを計算し、データベースを更新しますが、サイトのコントローラに構成ペイロードを送信しません。

アップグレードプロセスでは、ローカル NDO データベース（NDO の観点からは正しい構成）とファブリックに実際にデプロイされているものとの間の構成のずれもチェックされます。NDO のこのリリースが、アップグレード元のリリースと比較して追加のオブジェクトまたはプロパティをサポートしている場合、アップグレードはサイトのコントローラから既存の構成をインポートすることにより、それらのばらつきを自動的に調整します。

テンプレートが自動的に調整される場合、2 つのテンプレートバージョンが作成されることに注意してください。1 つは自動調整の前、もう 1 つは自動調整の後です。



- e) 前のサブステップのレポートを確認し、**[OK]** をクリックして終了します。

データベース アップグレードの最終段階では、実行したアクションの完全なレポートが表示され、確認できます。レポートを閉じた後でもう一度確認したい場合は、**[バックアップ]** ページの **[復元レポートの表示]** をクリックするだけです。

**ステップ 6** バックアップが正常に復元され、すべてのオブジェクトと設定が存在することを確認します。

- [サイト (Sites)]** ページで、すべてのサイトが **[管理対象 (Managed)]** としてリストされていることを確認します。
- [テナント (Tenants)]** および **[スキーマ (Schemas)]** ページで、以前の Nexus Dashboard Orchestrator クラスターのすべてのテナントとスキーマが存在することを確認します。
- [インフラストラクチャ (Infrastructure)]** > **[サイトの接続 (Site Connectivity)]** に移動し、サイト間接続が変更されていないことを確認します。

メイン ペインで、各サイトの隣の **[接続ステータスの表示 (Show Connectivity Status)]** をクリックし、既存のトンネルが稼働しており、接続が中断されていないことを確認します。

- メインペインで **[構成 (Configure)]** をクリックして **[ファブリック接続インフラ (Fabric Connectivity Infra)]** 画面を開き、**外部サブネットプール**のアドレスを確認します。

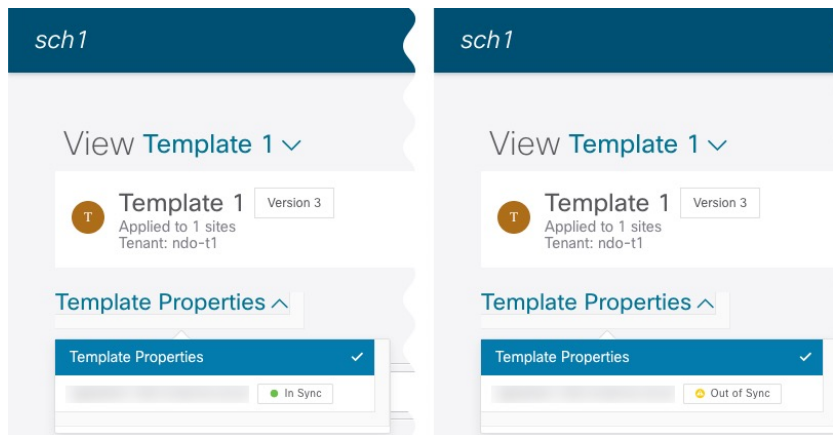
**[ファブリック接続インフラ (Fabric Connectivity Infra)]** 画面の **[全般設定 (General Settings)]** > **[IPsec トンネルサブネットプール (IPsec Tunnel Subnet Pools)]** タブを選択して外部サブネットプールを表示し、Cloud Network Controller で以前に構成された外部サブネットプールがクラウドサイトからインポートされていることを確認できます。

これらのサブネットは、オンプレミス接続のためのクラウドルータの IPsec トンネルインターフェイスとループバックのアドレス指定のために使用されるもので、以前の Nexus Dashboard Orchestrator リリースの Cloud Network Controller では、直接設定する必要がありました。

## 設定のばらつきの解決

いくつかの事例では、構成がサイトコントローラで実際に展開される状況が、Nexus Dashboard Orchestrator で定義された設定と異なる場合があります。これらの構成の不一致は、**[構成のば**

らつき (**Configuration Drifts**) ] と呼ばれ、次の図に示すように、テンプレート ビュー ページのサイト名の横に [同期されていません (Out of Sync) ] の注意で示されます。



Nexus Dashboard Orchestrator をアップグレードし、以前の構成バックアップを復元した後、このセクションの説明に従って、アップグレードプロセスによって自動的に解決されなかった構成のばらつきを確認して解決することをお勧めします。



(注) 構成のばらつきを解決する前にテンプレートを展開すると、Orchestrator で定義された構成をプッシュし、ファブリックのコントローラで定義された値を上書きします。

**ステップ 1** Nexus Dashboard Orchestrator で、[アプリケーション管理 (Application Management)] > [スキーマ (Schemas)] に移動します。

**ステップ 2** 構成のばらつきに対して最初にスキーマを選択し、テンプレートをチェックします。

展開のスキーマとテンプレートごとに次の手順を繰り返します

次の 2 つの方法のいずれかで、構成のばらつきをチェックできます。

- テンプレートが割り当てられている各サイトのテンプレート展開ステータスアイコンを確認します。
- テンプレートを選択し、[サイトへの展開 (Deploy to sites)] をクリックして構成比較画面を呼び出し、構成のばらつきが含まれているオブジェクトを確認します。

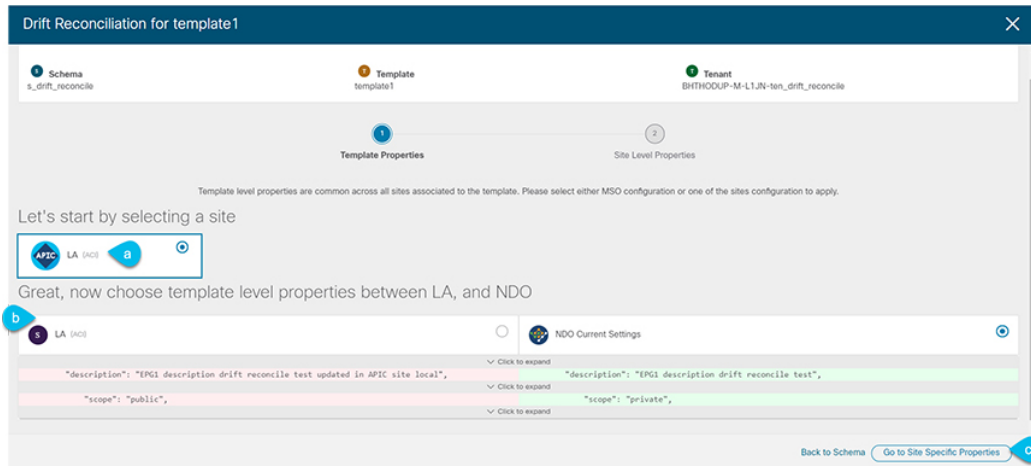
**ステップ 3** テンプレートに構成のばらつきが含まれる場合、競合を解決してください。

構成のばらつきの詳細については、[『Cisco Nexus Dashboard Orchestrator Configuration Guide for ACI Fabrics』](#) の「構成のばらつき」の詳細を確認してください。

a) テンプレート展開ダイアログを閉じて、スキーマ表示に戻ります。

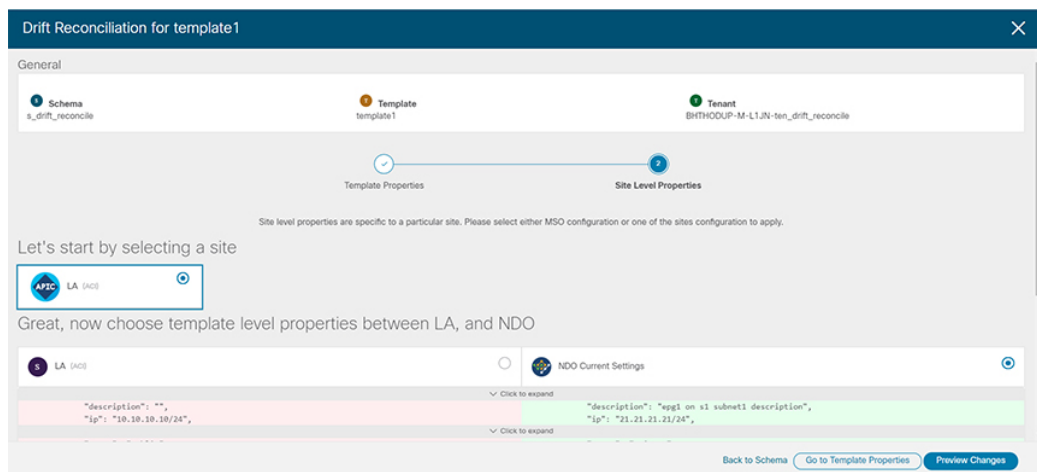
この時点でテンプレートを展開すると、Orchestrator データベースの値をプッシュして、ファブリックの既存の設定を上書きします。

- b) テンプレートの [アクション (Actions)] メニューから、[ばらつきの調整 (Reconcile Drift)] を選択します。
- [ばらつきの調整 (Reconcile Drift)] ウィザードが開きます。
- c) [ばらつきの調整 (Reconcile Drift)] 画面で、各サイトのテンプレートレベルの構成を比較し、希望のものを選択します。



テンプレートレベルのプロパティは、テンプレートに関連付けられているすべてのサイトに共通です。Nexus Dashboard Orchestrator で定義されたテンプレートレベルのプロパティを各サイトでレンダリングされた構成と比較し、Nexus Dashboard Orchestrator テンプレートの新しい構成を決定できます。サイト構成の選択は、既存の Nexus Dashboard Orchestrator テンプレートのこれらのプロパティを変更し、その場合、Nexus Dashboard Orchestrator の構成を選択すると、既存の Nexus Dashboard Orchestrator テンプレートの設定はそのまま残されます。

- d) [サイト特有のプロパティに移動 (Go to Site Specific Properties)] をクリックして、サイトレベルの構成に切り替えます。



特定のサイトの構成を比較するために、サイトを選択できます。テンプレートレベルの設定とは異なり、各サイトの Nexus Dashboard Orchestrator 定義または実際の既存の設定を個別に選択して、そのサイトのテンプレートのサイトローカルプロパティとして保持できます。

ほとんどのシナリオでは、テンプレートレベルとサイトレベルの両方の構成で同じ選択を行いたとしても、ばらつきの調整ウィザードでは、サイトのコントローラで「テンプレートのプロパティ」レベルで定義された構成と Nexus Dashboard Orchestrator で定義された構成またはその逆を選択できます。

- e) **[変更のプレビュー (Preview Changes)]** をクリックして、選択内容を確認します。  
プレビューは **[ばらつきの調整 (Reconcile Drift)]** ウィザードの選択肢に基づいて調整された完全なテンプレート構成を表示します。
- f) スキーマを保存します。
- g) その後、**[サイトに展開 (Deploy to site)]** をクリックして構成を展開し、そのテンプレートのばらつきの調整を完了できます。

**ステップ 4** Nexus Dashboard Orchestrator で各スキーマとテンプレートに対して上記の手順を繰り返します。

**ステップ 5** 監査ログをチェックして、すべてのテンプレートが再展開されていることを確認します。

**[オペレーション (Operations)]** タブの監査ログを表示できます。

**[監査ログ (Audit Logs)]** ページで、すべてのテンプレートが **[再展開済み (Redeployed)]** と表示され、完全な再展開が正常に完了したことを確認します。

---





## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。